

第1回 TTC スペクトル管理 SWG 議事録

1.日時 2003年7月3日(木) 13:30~22:00

2.場所 TTC 事務局4階 D,E 会議室

3.出欠者 出席会員数/全会員数:50/82 (出席数には議長委任欠席24を含む)
出席委員数/全委員数:60/97 (出席数には議長委任欠席25を含む)

4. 会合資料 寄書リスト参照

5. 議事要約(以下敬称略・社名等略称)

5-1) 新リーダーの就任:池田リーダー

- ・新リーダー 池田佳和 DSL 専門委員会特別委員(東京工業大学教授)
- ・出席者全員より、前任リーダー(小畑)、サブリーダー(松本、成宮)、事務局(市川)への謝意
- ・会合定足数:出席者および届出欠席者60名/委員総数97名:会議成立

5-2) 議事次第の承認:合意

- ・本 SWG では合議制により決定する。
- ・審議は公開にておこなう。議事録および関連する資料は TTC の HP で公開する。

5-3) サブリーダーの信任投票:信任(松本、吉井、林)

- ・出席者の過半数賛成により信任
- ・議事録書記:第一回目のみ書記をサブリーダー(林)が担当。次回から会員各社の持ち回りとする

5-4) これまでの経緯説明(小畑前リーダー):合意

- ・第12回会合の議事録について[T465-13-01]
- ・DSL 作業班報告概要(案) [SMS-1-39] :総務省資料
- ・DSL 専門委員会議事録(案)[DSL-02-01]
「DSL 専門委員会がスペクトル SWG の結論を最大限、尊重する」を再確認
- ・DSL 作業班報告書修正事項[SMS-1-27]:総務省資料

5-5) JJ-100.01 の改定

(1)進め方1(会議の進め方)

a)会議運営 [SMS-1-30]:合意。

寄書の提出は原則、1週間前までに提出する。日本文が正本。

英文の場合、1週間前までに提出し、日本文は遅れて提出も可

遅延寄書は会合で合意されれば取上げる。時間の制約があれば優先順位を下げる

b)SWG の役割[SMS-1-31]:合意。ただし、クラス B、C(影響の有無)の計算は、スペクトル管理 SWG で扱う。クラス A、A'(保護規定)の設定については、スペクトル SWG と DSL 専門委員会にて調整が必要な事もありうる

c)メーリングリスト上での議論[SMS-1-28]:以下 で合意

スペクトル適合性確認に関すること:今回の提出寄書で検討。

メーリングリスト上の議論は、会合で基本的な合意がとれた事項に関する討論と、情報交換等に使用

d)SWG の運営[SMS-1-06]:5 社 DSL 事業者間合意は、5 事業者に限定するものではなく、他事業者間にも適用していくことを確認

(2)進め方2(事業者間協議関連)

a)事業者間協議合意事項[SMS-1-03]: 開示内容を了解

“緩和値は装置開発には適用しない”の意味:緩和値を前提とする開発は認めないこと

b)[SMS-1-05]:距離により方式が変わる装置の NTT データベースへの登録は、別途 TTC 外で整理(制限条件が同一の場合は一番影響の大きい方式を登録する。条件が違えば、複数登録する等)

c)商品表示等での速度表示については、スペクトル管理 SWG の議論対象外とする。

当 SWG での方式呼称は、Single、Double(OL)等を使用する(24M、12Mbps 等は使用しない)

d)“既存未確認方式”に関する適合性確認

[SMS-1-02] [SMS-1-07] [SMS-1-04] [SMS-1-35] [SMS-1-12] [SMS-1-15] [SMS-1-13] [SMS-1-38]:

以下の条件で再計算する

計算条件を、0.4mm プラスチックケーブル、干渉源を同一カッドを含む5回線とする

SSDSLは保護性能基準値を決定する干渉源には含めない。

導入数は多くはないが代替不可の重要回線が含まれる

SSDSLの適合性判断においては、保護性能基準値を緩和し、限界線路長を設けない。

干渉源として PSD テンプレート(PSD マスク - 3.5dB)を使用する(TCM-ISDN除く)

ADSL帯域外は、10kHz 帯域幅と1MHz帯域幅の両方が規定されている場合、1MHz 帯域幅でのPSDを使用する。

“収容制限なし、かつ距離制限あり”を認める、収容制限と距離制限はおのこの独立の事項とする

”収容制限有り“は、当面の間”カッド内収容制限“とする

AnnexC(DBMOL)とAnnexA(OL)は、特例扱いする場合、“制約条件及び注記”に記述

AnnexC(DBMOL)とAnnexA(OL)の特例扱い……下記(4)c参照

“スペクトル適合性確認システム一覧”を作成する。かつ、計算結果を公表する

スペクトル適合性欄は不要。クラスの定義の明確化が必要……下記(4)c参照

干渉計算結果は、接続約款に必要なため、公表内容に含める

第2版ではOL方式の保護基準値はFDM方式で代表させるが、OL方式特有の保護基準値については第3版以降で検討する

e)“今後導入される新方式”に関する適合性確認[SMS-1-07]:以下の条件で計算する

計算条件を、0.4mm プラスチックケーブル、干渉源を同一カッドを含む5回線とする

限界線路長の適用は厳格に行う

“スペクトル適合性確認システム一覧”を作成する。かつ、計算結果を公表する

Double、Quadスペクトラム方式の計算をする場合、守られるべき方式は、グループにして

Singleスペクトラムの非OLを代表として計算する

DMT方式のシステムの干渉源 PSDとしては、PSD テンプレート(PSD マスク - 3.5dB)を使用する

ADSL帯域外は、10kHz 帯域幅と1MHz帯域幅の両方が規定されている場合、1MHz 帯域幅でのPSD

を使用する。

“収容制限なし、かつ距離制限あり”を認める、収容制限と距離制限はおのこの独立の事項とする
第2版ではOL方式の保護基準値はFDM方式で代表させるが、OL方式特有の保護基準値については
第3版以降で検討する

- f) 上記、既存未確認方式および新方式に関する適合性確認を実施し、
上記の合意事項は第2版に盛り込む
ADSLはFDMのみを保護基準の対象とする(第2版)
被干渉方式は、TCM-ISDN、G992.1AnnexA、G992.2AnnexA、G992.1AnnexC、G992.2AnnexCとする
FBM方式の扱いはクラスBとする(第2版)。ただし、適合性確認計算結果を参考として記述する
ただし事後対策の対象とし、[SMS-1-03]の4項の措置とする
- g) 事後対策については、合意されたものに関して第2版までは記述し、それ以降は実績等を勘案し再検討する

(3)進め方3(アマチュア無線対応関連)

- a) アマチュア無線干渉対策[SMS-1-08]: 合意
スペクトル管理 SWG では、アマチュア無線との干渉対策として、「PSD を“-80dBm/Hz”以下とする」を採用
計算時に-80dBm/Hz のところにビット割付しない。
- b) [DSL 仕様検討 SWG 検討内容]: 紹介
-80dBm/Hz 以下の定義をITUで明確化する。SWGではピーク値を使用(ITUでピーク値とノミナル値の
どちらか不明のため、最悪値を採用)

(4)クラス分類

- a) クラス変更について[SMS-1-09] [SMS-1-10r1]: 合意
- b) スペクトル適合性計算法の改良提案[SMS-1-14]: 合意
- c) G992.1 AnnexA OL方式について[SMS-1-11r1]: 以下の条件下で合意
現行機種によるG992.1 AnnexA(OL)の増設には一定の基準を設けることを条件として、
G992.1 AnnexA OL方式はクラスAとし、特例であることを記述する
特定名称として“G992.1 AnnexA OL (ソフトバンクBB・長野県協同電算社仕様)”とする
AnnexC DBMおよびAnnexC FBMに対する事後対策は、個別に事業者間で協議する
事後対策内容については、本SWGの議論としない
スペクトル適合性と被害者規定を、記載する
制限条件については、[SMS-1-03]4-5に)記載の条件を適用する
電力制限で適合性を確認するときは、G992.1 AnnexA OL (ソフトバンクBB・長野県協同電算社仕様)の
PSDを利用できない

(5)シミュレーション手法

- a) シミュレーション手法確認[SMS-1-13]: のように実施
今回のSingle、Doubleスペクトル方式の適合性確認計算には、
) 線路定数は、JJ100.01第1版を使用(G996.1 AnnexBは使わない)
) DMT方式のシステム干渉源PSDとしては、PSDテンプレート(PSDマスク-3.5dB)を使用
) ISDNの被干渉時の計算式については、従来モデルを用いる

今後、改版に向けて以下を検討する

)G996.1 AnnexB (～12MHz仕様)の使用

)ISDNの被干渉時の計算式については、計算式の正誤確認を行い、正しい式を使用する

(6)スペクトル適合性

a)[SMS-1-29]:方式仕様、G992.3は“DSL作業班”の記述を引用する

b)[SMS-1-21]:限界線路長は、次回審議事項とする(“以下”、または“未満”の表記法を確認する)

c)[SMS-1-23][SMS-1-24]:本会合で決定した干渉条件で再計算する

d)[SMS-1-36]:方式仕様

e)[SMS-1-18][SMS-1-20]:取り下げ(本会合で決定した干渉条件で再計算し、再提出)

f)[SMS-1-26]専用線:従来どおり認める(各委員でチェック)

g)[SMS-1-37]G961(ECのISDN)の扱い:次回会合で計算結果寄書を提出

5-6) 今後の予定

a)クラスの定義について、次回会合に寄書として文案を提案して欲しい

b)約款関連、認可申請手続きだけに関わる事項は、本SWGの検討対象ではないことを確認した

c)スペクトル適合性確認について、クロスチェックは最低2社で実施する。ただし、締切時に1社しか計算値がない場合は、原寄書の提案する計算結果が正しいものとみなす

・ボランティア:NEC、住友電工、グローブスパン、NTT東

・取りまとめ:サブリーダー(松本)

・内容:適合性計算および各社の計算値の突合、スペクトル適合性確認システム一覧の作成

・締切:7月8日(火)22:00

d)スペクトル管理SWGでの合意方法

7月9日(水)の朝にメーリングリスト上で照会し、各社の異議がないことを確認した後、ホームページに掲載し、適合性確認とする

・異議締切:7月9日(水)12:00

e)最終適合性確認は、次回会合でコンファームする。

次回会合にて、JJ-100.01改版作業のため、編集チームを数名で編成する予定。チームリーダーは松本サブリーダーが担当することを合意した

f)次回会合開催日および場所:7月15日(火)13:30～ TTC事務局4階D,E会議室

寄書締切りは、会合間隔が短い特例として、7月10日(木)24:00

以上